

**REF NPO 法人化 1 周年
創立 35 周年 記念講演**

REF NPO 法人化 1 周年 (創立 35 周年) 記念シンポジウムが平成 26 年 11 月 29 日 (土) AOSSA で行われ、約 60 名の出席を得られた。

REF NPO 法人化 1 周年シンポジウムは加藤哲男理事長の挨拶から始まり、基調講演では宇野秀保氏から「舞鶴若狭自動車道の全線開通とその整備効果について」と題して、舞鶴若狭自動車道の整備の歩みや整備効果について講演していただいた。次に報告会が行われ、小嶋直人氏から「舞鶴若狭自動車道の全線開通と小浜市のまちづくり」と題して、まちなかの賑わい創出などの取り組みが報告された。続いて、金松健一氏から「中部縦貫自動車道の開通に向けた大野市のまちづくり」と題して、大野城周辺や道の駅の整備などについて報告された。

- 主 催: 特定非営利活動法人 福井地域環境研究会
- 日 時: 平成 26 年 11 月 29 日 (土)
14:30~16:50
- 場 所: AOSSA 6F
(福井市手寄 1 丁目 4)
- テーマ: 「繋がる道は福井地域の未来に何をもちたらずか」
- 基調講演 14:40~15:50
「舞鶴若狭自動車道の全線開通とその整備効果について」
中日本高速道路(株)名古屋支社教賀工事事務所長 宇野 秀保氏
- 報告会 15:50~16:50
- ・小浜市
「舞鶴若狭自動車道の全線開通と小浜市のまちづくり」
小浜市産業部次長 小嶋 直人氏
- ・大野市
「中部縦貫自動車道の開通に向けた大野市のまちづくり」
大野市産経建設部建設整備課長 金松 健一氏

その後会場を移し、懇親会が開かれた。和やかな雰囲気の中、懇親会は進み、講師と会員の交流を深めた後、閉会した。



講演する宇野 秀保氏



報告する小嶋 直人氏



報告する金松 健一氏



第二期中間報告会開催

REF第二期(通算第35期)中間報告会が二月十三日(金)A OSS A 607会議室で開催された。

今回は「交通分科会」「水分科会」「地象分科会」の三分科会によるこれまでの活動報告及び新規入会者ついて報告された。

加藤哲男理事長からの挨拶に始まり、梅田祐一氏の司会のもと、各発表時間十分、講評三分、質疑三分の時間内でそれぞれの分科会の発表、講評が行なわれた。報告後には、橋本栄治氏による総評が行われた。

また、宮本好昭氏より35周年記念行事の開催報告がされた。

報告会終了後、会場を移し懇親会が開かれ、終始和やかな雰囲気では会員相互の交流が深められた。



第2期中間報告会 加藤理事長のあいさつ



宮本副理事長の35周年記念行事開催報告

【交通分科会】

発表 橋本 拓己
講評 丸中 孝通

「交通路としての運河の役割に関する歴史的考察」

運河とは、「水運を目的として、人工的につくられた水路」であると定義されており、古くはローマ時代から主要な交通施設として人々に親しまれてきた。日本においても、江戸時代から明治期にかけては、水運は我が国の必要な輸送手段の一つであり、主要な町の近くには必ず水路が存在していた。しかし、戦後、鉄道、高速道路などの新しい交通体系が形成され、交通としての役割としての役目を終えていった。過去の遺産となってしまうものの、運河は人々の親水空間を生み出すなどの新たな利用方法を得て都市の空間再生・自然再生に役立つ可能性を秘めている。

そこで、NPO第二期の交通分科会では、言葉の語源や運河法等を整理し、文献調査・現地調査を踏まえた上で、交通路としての運河の歴史的考察を行い、今後の新しい方向性を探ることを目的とする。なお、調査の対象は、日本の運河一覧を参考とし、関連する文献調査、現地調査を実施していく。

今期は計3回の分科会を開催し、今日現在で5箇所での現地調査、文献調査を実施している。引き続き現地調査を行い、運河数を追加する予定である。

これら調査結果をもとに、例えば、①市街地(中心部)との位置関係、②人口、③面積、④鉄道の敷設時期、⑤道路の建設時期、⑥戦災の有無、⑦まちづくりとの関係(歴史的考察)、⑧市街地形態等の変遷を図示し、一覧表に整理していく予定である。

【水分科会】

発表 齊藤 重人
講評 福 秀則

「県内河川と地域のつながり」

今期の水分科会は「県内河川と地域のつながり」と題して、福井県内の河川の流域概要、歴史、治水の変遷、利水の状況、環境の状況を調査し、とりまとめる。今日現在で2箇所での調査を実施しており、河川の状況を報告する。

一級河川 荒川

永平寺町吉野ヶ岳が源で、中流部は福井平野東部の田園地帯を蛇行して市街地に入り、勝見で足羽川に合流する。足羽川合流部には足羽川からの逆流を防止するための水門と、内水排除のための排水機場が設置されている。

荒川下流部の旭地区では1990年から「生物による水質調査」を実施している。城東橋下流では、「大変汚い水」から「汚い水」に変わっている。最上流部から中流域には、「カワゲラの幼虫」などの「きれいな水」の指標生物が沢山発見されており、豊かな自然生態系が存在することが分かった。

一級河川 天王川

源は越前市千合谷町の丹生山地、福井市清水山町で日野川に合流する。昔は内郡から南に向かいその後東に流路を変え日野川に合流していたが、現在の河道に付け替えが行われた。昭和59年より、日野川合流点より市姫橋間が整備され、平成15年以降は市姫橋より五箇堰間が事業中である。

天王川は昭和40年頃には河原が点在していたが、近年は低水路の固定などで河原が消滅している。河川改修による河床の平坦化により、瀬や淵が少なくなっている。旧朝日町には天王川を美しくする会があり、年に一度は住民総出でゴミ拾いや堤防の草刈りを実施している。

【地象分科会】

発表 小林 孝彰
 講評 加藤 式男

「福井豪雨から学ぶ防災・減災について」

今年度は平成16年7月18日に発生した福井豪雨から10年という節目の年であったことから、豪雨被害に関連したシンポジウムやパネル展などがいくつも行われた。住民の方々も多く参加され、豪雨被害を振り返り、水害に対する防災・減災について改めて考える機会となったといえる。地象分科会の活動においても福井豪雨について過去に取り扱っていることから、今期は被災から10年経って現地がどのように変化したのかを調査し、防災・減災について考えていく。

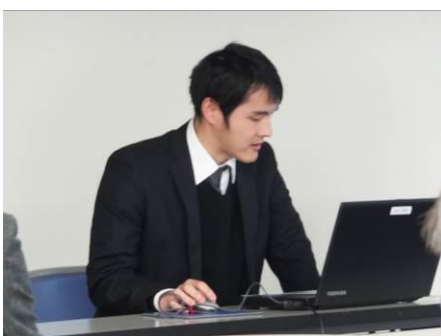
今回の現地調査については、福井豪雨で印象の強い破堤現場、付近の浸水現場、上流の美山までに焦点をあてて、次の4箇所を回って調査した。

- ① 足羽川の破堤現場付近である春日地区
- ② 浸水被害の大きいみのり地区
- ③ 越美北線の被害があった一乗谷地区
- ④ 土石流被害の大きかった美山地域

現地調査では復旧された堤防や、新しくできた堰堤などの防災施設を始め、橋梁の架け替えといったように、当時からの違いが把握できるもののほか、地下埋設による貯留施設等、一見分かりにくい効果が期待できるものが現地で確認された。



発表行う橋本拓己氏、講評の丸中氏



発表行う小林氏



発表行う齊藤氏



総評を行う橋本栄治氏

【第二期 幹事会開催】

第2期第1回幹事会を6月5日にアオッサで、第2回幹事会を7月28日に福井大学で、第3回幹事会を10月3日にアオッサで、第4回幹事会を10月31日にアオッサで、第5回幹事会を1月20日にアオッサで、第6回幹事会を4月20日にアオッサで、今期は計6回開催した。

各回の幹事会において、各部門の事業進捗の確認や事業計画、予算、REFニュース作成、ホームページ、会員の入退会、会費請求、総会や中間報告会の準備、35周年記念シンポジウムの準備等を協議・確認した。

☆入会のおしらせ☆ (敬称略)

《入会》

正会員 なし
 賛助会員 なし

平成27年4月末現在

正会員 75名
 賛助会員 29名
 合計 104名

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 12,000円
 賛助会員 … 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行
 振替口座 730・3・20396
 福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒914-0811
 福井県敦賀市中央町1丁目7-36
 福井県敦賀土木事務所

福 秀則

TEL 0770-22-4661

Mail h-fuku-nl@pref.fukui.lg.jp